

## 特集

# 産婦人科診療で用いられる バイオマーカー

## 企画者のことば

川名 敬\*

産婦人科領域では、古くから多くのバイオマーカーが使われてきた。バイオマーカーによって病態をモニターすることは、疾病の診断、管理において必須であり、日常臨床現場の実際においてバイオマーカーから多くの情報と推測を行っている。バイオマーカーといっても血液検査、画像検査、ゲノム検査、遺伝子発現（免疫染色）など、多岐にわたる。さらに近年は、バイオマーカーによる予知に関する研究も目覚ましいものがある。これらの基礎研究、それを臨床応用した検査キット、それをを用いた臨床研究から得られたエビデンスは常にアップデートされてきている。

次から次へと新しいバイオマーカーが開発され、保険収載されてくる昨今、多様なバイオマーカーについて、その意味をよく理解し、正しい解釈を行い、診療に活用することは臨床現場において必ず役立つであろう。日進月歩の進歩をするなか、バイオマーカーの種類が多様化

し、基礎的な知識も必要とすることから、それら最新のバイオマーカーを熟知するためには容易ではない。バイオマーカーの存在は知っていても、その意義、解釈については正しく理解されていない面もある。バイオマーカーはあくまでも検査の1つであって、それが診断・管理のすべてではないことから、バイオマーカーの限界も知っておく必要がある。

臨床検査の解説本は多くあるが、産婦人科に特化したバイオマーカー辞典のような書籍がないことから、今回の特集ではバイオマーカーについてバイブル的な本になればと願っている。本特集では、最近、産婦人科領域で注目され、臨床現場に登場してきたバイオマーカーを取り上げ、その意義と活用法もしくは結果の解釈、さらにはその限界について、エキスパートの先生に解説していただく。多忙な臨床現場において、新しいバイオマーカーの知識を整理する機会にしていだきたい。

\*K. Kawana 日本大学産婦人科(教授)